

かみ こ 上っ子 ぶっく



あさゆめ さむ ゆうぐ おと はや
すっかり朝夕が寒いくらいになってきました。夕暮れが訪れるのも早くなり、
あき よなが きせつ
秋の夜長の季節になりましたね。

としよしつ げいじゆつ あき びじゆつかんけい ほん てんじ
図書室では「芸術の秋」をテーマに、美術関係の本をピックアップして展示し
ています。画家の本では、絵が描かれた背景などの説明や、画家本人の紹介な
どわかりやすく書いてくれています。

また、絵の描き方のコツを紹介している本も置いてあるので、読んでみてく
ださい。

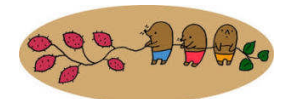
あき どくしよしゅうかん はじ 秋の読書週間が始まります。



10月27日(木)から11月9日(木)が「読書週間」
として設定されています。

昭和22年に「読書の力によって、平和な文化
国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と
としよかん ちから しんぶん ほうそう
図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマス
コミも一緒になり、第一回目が開かれました。

現在のように、文化の日をはさむ2週間にな
ったのは、第二回目からです。(「読書推進運動協
ぎかい ホームページ
議会」のHPより)



どくしよかんぎょう 読書環境づくりのヒント!

リビングに家族全員の本を置くミニ本棚を作
りませんか? 書斎のような大きな本棚ではなく、ブックエンドで仕切った少しの
スペースでかまいません。

子どもが図書室から借りてきた本、家族が今読んでいる本。それが料理の本で
も、むずかしい小説でも、ビジネス書でもかまいません。常に家族の誰かが本を
よ 読んで環境を作ることが大切です。読書が苦手な人は、まず「本を手にする」、そこからスタートしましょう。

ほん 「本」についてのあれこれ。

わたし す じどうぶんがくひょうろんか あかぎ こ ひと ひと ちよしよ
私の好きな児童文学評論家に赤木か子さんという人がいます。その人の著書
こ ほんざら ほん たいしゅうかんしよてんはっこう なか いちぶしやうかい
「子どもを本嫌いにしない本」(大修館書店発行)の中から一部紹介します。

ほん
本にはおおざっぱにわけて、だれかが作った話とこの世界に本当にある話の二つ
があります。

だれ つく はなし ものがたり みんな かり “くうそうけい” よ
誰かが作った話が、物語や民話です(これを仮に“空想系”と呼びます)。

ほんとう はなし きょうりゅう こんちゅう ほし ほん “けい”
本当にある話、は、のりものや恐竜、昆虫や星の本(こちらは“リアル系”と
よ 呼びましょう)。

そのすべてのジャンルに、“本”があるのです。
ところが日本では、本を読む、というと、小説、物語を読む、と勘違いされていること
がよくあるのです。

しょうせつ よ ひと どくしよか ひと ほん よ ひと
小説を読む人は読書家、そうでない人は本を読まない人、みたいに――。

でも、どっちも本ですよ?

そうしてそのどっちが好きかは、頭がいい、悪い、ではなく単純に“好み”です。

(太文字の部分は原文もそのようになっています。)

この文を読んで、ホッとした人もいるのでは? 小野先生も中学校2年ぐ
らいまでは、それこそ“リアル系”でした。小学校の時に、ポケット図鑑セットと、
しょうがくせいり かじてん か しょうがっこう とき ずかん
小学生理科事典を買ってもらい、それを読むのが大好きでした。

いまでも“くうそうけい”と“リアル系”では3対7ぐらいの比率です。

好きな本はなんでもいいのです。自信を持って読もう!

本棚から、本を抜いて手に取る。表紙を見る。目次を見る。それだけで、あな
たたちの読書は始まっています。ただ、読書には少しの訓練が必要です。自
てんしゃ おな れんしゅう ひつよう
転車と同じで練習が必要なのです。

その話は、また改めて…。

